

「ロータリークラブに期待するもの、そして私が目指すもの」

木村 天乙 静岡産業大学 情報学部

情報デザイン学科 柯麗華ゼミ所属

私がロータリークラブの方々のお話を聞いた上で考えた、ロータリークラブに期待する活動は、歪んだ差別意識を無くすことです。これは、福祉法人を立ち上げた方のお話を思い出して考え付きました。

私が今まで生きてきた中では、周りの人が障害者の方を侮蔑するという事が何度かありました。その中でも、スクールバスでの出来事はとても記憶に残っています。清水にある高校にスクールバスで登校している時の事です。信号で止まっているとき、奇声をあげている人がバスの横を走り抜けるという事がありました。その人の様子や叫び声を聞いて判断したところ、彼は何らかの障害を持っていたようでした。問題はバスの乗客の一人が、彼を差別用語で馬鹿にしていたことです。相手のことも考えず、堂々と人のことを侮辱したのです。その時私は、そのような行動をしたのは、障害のある人たちに対する理解が足りないせいだと考えました。

そのことを今回の論文テーマを聞いたときに思い出し、このような考え方をする人を減らすような活動をしてもらいたいと思つたようになったのです。

具体的には、障害者の方と一般人、特に小学生との交流の場を作つてほしいのです。障害を持つている方のことを理解できるようになれば、このように一方的な考え方で人を差別するようなことも無くなるはずです。小学生との交流を作ってもらいたいというのは、偏見を持つ前に障害者の方と交流を持つてほしいとの考えからです。

具体的な交流方法はロータリークラブの方々に任せたいと思いますが、私個人としては、清掃活動などのボランティアがいいと思つています。その理由としては、本音の自分で相手と交流できるということがあります。私は大学生活の中でボランティア活動を何度か行いました。その時に地域の方々と話したりしたのですが、その時自分は、活動内容が公園の整備という辛いものであったので、自分を偽ることなく不満を言ったり、協力し合つことが出来ました。他の活動ではここまで本音の自分をさらけ出すことが出来ませんでした。障害者との交流の際も私がボランティアに参加していたように、本音で相手と接してほしいのです。

取り繕つた態度で相手と接しては、相手を理解することはできない、その場限りの「偽りの理解」で終わってしまうでしょう。それでは差別をなくすことができません。スクールバスで人を差別していたような人を減らすには上辺だけの理解では意味がないと私は思っています。

このようなことを書いている自分ですが、ロータリークラブの方のお話を聞くまでは就職したいと思う職業も明確に決めておらず、理想とする社会人像もありませんでした。その場限りで思いついたものは多くありますが、漠然とした思いで考えたものであり、強い意志を持つて決めたものではありませんでした。今も、どのような職業に就きたいのか、具体的には思いついてはいません。しかし、この講義を受けたことで、どのような社会人を目指すのかは決まりました。

講座で講義してくださった方々は、職種も役職も様々で、今の仕事に就いた理由もそれ

ぞれ違いました。中には会社を受け継いだ人もいて、その仕事に就いて後悔していないだろうか、と思つた人もいます。しかし、彼らの仕事に対する情熱は全員強く、それがとても印象に残りました。

例えば、お茶業者の方は、昔に流行つたお茶の飲み方を再考させようとしたことを、熱く語つてくれましたし、製薬会社の方の漢方についての話し方には、自分の仕事に対する愛情が感じられました。

このように、講義して下さつた方々の、仕事に対する情熱を感じて、自分も彼らのように仕事に真摯に、かつ熱中できるようになろうと思ひました。

反面、講義を聴き「このようには為つてはいけない」と自分を見つめ直した話もありました。

製薬会社の方がしてくださつた失敗の法則の話の中で、失敗する人は勝手にルールを変えたりすること、自分の起こした失敗を隠そうとすることで余計に事態が悪化するという話がありました。これはつまり、自分本位で動けば、自分だけでなく、会社全体にまで悪い影響を与えてしまうという事です。この話を聞いて昔の自分を振り返り、昔はとても自分勝手なことをしたことがあると恥ずかしがりながら思ひだしていました。話を聞きながら、協調性のある人間になろうと思つたことは、とてもよく覚えています。

子供のために福祉法人を立ち上げた方の話では、自分の見直すべき部分を理解することが出来、将来のためになりました。彼女が福祉法人を立ち上げた理由は、自分の子供が障害者であること、社会福祉が不十分であつたためです。

そのお話を聞き、なんて凄い方なのだろうと思ひました。同時に、自分は彼女のように子供のために動くことができるだろうかと考え、出来ない自分に気づき、愕然としました。

小説やテレビドラマに出てくるひどい親を見て「最低だ」と思つていたにもかかわらず、同じ立場になつて真剣に考えると、彼らと同じことをするかもしれない自分に気づき、なんて自分勝手なだろうと反省しました。

そのような「自分勝手な自分」に講義を聴くことで気が付き、そのような卑劣なことをしない自分になりたい、と強く思ひました。

このように、ロータリークラブの方々のお話は、自分の悪い部分に気づかせてくれるものでした。

これを踏まえて、私が目指す理想の自分の姿は、協調性のある、自分勝手なことをしない、そして情熱をもつて仕事をすることが出来る人です。この理想の社会人を目指していきます。